

ちわい



浄土宗西山深草派宗務所
総本山 誓願寺

元祖法然上人

開宗八百五十年

慶讃大法要

令和六年四月二十一日〜二十五日 厳修

浄土宗西山深草派
総本山 誓願寺

その時は
開かれた
門は

◆ 目次 ◆

- 開宗八百五十年に向けて ⑨
- 賢問子行状記 ③⑩
- 法然上人御遺跡霊場巡りのご案内
- お釈迦さまの十大弟子 21
- インド **ド** **タ** **バ** **タ** 夫婦道中記 ⑤⑥
- 総本山誓願寺だより
- 何でも、お寺探偵団 Vol. 59

長領山 延長寺

開宗八百五十年に向けて ⑨

布教師会 新美直照

お念仏を称える習慣

法然さまが立教開宗されて三年後には八五〇年という大きな節目を迎えます。

仏教が日本に伝来したのはおよそ千五百年前のことです。当初は貴族などの上流階級だけのものでしたが、鎌倉時代になりますと、仏教は人々の中に溶け込み、心の支えとなっていきました。その頃、多くの人は字を読むことができず、仏教の難しい教えを理解することはなかなか出来ませんでした。そんな中、法然さまは人々の悩みや疑問にお答えし、仏教の教えを説いていったのです。法然さまの『一百四十五箇条問答』は、法然さまが人々のさまざまな質問に答え

て下さっている問答集です。この中に、次のような問答があります。

「さけのむは、つみにて候か。」

「まことにはのむべくもなければども、この世のならむ。」

「酒を飲むのは罪になるのでしょうか。」

「本当は飲んではならないものですが、この世の習いなので。」

仏教には不飲酒戒という戒がありますから、私たち仏教徒は酒を飲むことは禁止されているのです。ですから、「酒を飲んでもいいですか？」と問われて、「いいよ」と答えられないのです。「ダメです」と答えるしかないのです。しかし、日本では、「酒は百薬の長」という言葉があるように、お酒は生活の中に溶け込んでいきますし、人の集まる場所などでもお酒を飲むことは、場を和ませる上でも欠かせない習慣になっていることから、法然さま

は、「本当は飲んではいけないのだけれども」と言ったあとで、「この世の習い」と社会の習慣を認めているのです。ここが法然さまの慕われる所以です。

法然さまの言葉は、私が子どものころ、「本当はダメだよ」と言いながら、父に内緒でお小遣いをくれたり、お菓子を買ってくれたりしたおばあちゃんを思い出します。そこには、うれしさと優しさがありました。

悪いことは悪いことなんです。しかし法然さまは、悪いことは悪いことだと認識した上で、反省と懺悔をすることの大切さを教えて下さっています。お酒もまた、反省と懺悔をしながら頂く、浴びるように飲んではダメなんです。阿弥陀さまは、私たちを見えていますよ。

大切なのは、お酒を飲む習慣ではなく、お念仏を称える習慣なのです。阿弥陀さまは、私たちに「深い思いやり」をかけて救って下さいます。智慧のある慈悲の阿弥陀さまの「深い思いやり」に気づき、お念仏を称える習慣がつかますと、自然と安楽の境地が開けます。そうすると、満足感と感謝の心が起きるようになってきます。お念仏を称える習慣は、私たちの幸せには欠かせない習慣なのです。

賢問子行状記

宝蔵寺住職 小島英裕

30

第十八話

「寿安、お告げを得て正念往生」

天正五年（一五七七）頃、滋賀県甲賀郡出身の、寿安という心優しい念仏信者がいました。姓は高瀬氏で、今は京都に住んでいます。性格は正直で非常に温厚、若い頃から仏教を慕い、仏道への志は働き盛りの頃益々深くなり、口称念仏を怠りませんでした。貞安上人から浄土教を伝受され、戒名として貞誉の二字を賜りました。貞誉の誠実なお念仏は他の念仏者と異なり、親指の先は矢筈に似ています。これは「数遍念仏」の兆候です。貞誉は毎日、誓願寺に参り仏前に座り、念珠を繰ること五千回、または一万回。三十年間、暑い日も寒い日も怠りません

でした。

慶安元年（一六四七）十月頃、貞誉は病に倒れました。親族が集まり薬を用意しましたが、貞誉は薬を飲もうとしませんでした。その訳は、二、三日前の夜、誓願寺の如来さまが天井に現れられ、「あなたの最期は近い。この上なく誠実な心を持った行者よ、極楽の上品中生の台にあなたの魂を移すことが決まった。必ずお念仏を怠らないように。私はあなたを守護しよう」と霊夢を受けていたのです。貞誉に薬は要りません。周りの人々に、「私は今日まで七十数年間、口称念仏以外の修行はしていない。夢でもない幻でもない極楽浄土の素晴らしい景色が目の当たりに見えている。阿弥陀さまと共に来迎する菩薩さま方が私を取り囲んでお

いになる。上品往生に何の疑いもない。そろそろ私の命が尽きそうです。どうか皆さんも、この不思議な阿弥陀さまのご本願のお力を信じて、あえて他の修行をせず、称名念仏をずっと続ければ、最後は極楽往生できる。極楽の池の上でお会いしましょう。さあ私と共にお念仏を一緒に称えてください」

と、いつもより大きな声でお念仏を続けました。周りの人々は退屈でしたが、貞誉はただ合掌して、

「今こそ来迎だ！」

と言い終わると息絶えました。見れば、顔色は鮮やかなまま微笑んでいます。めつたにない不思議な最期です。しかもしばらくすると、貞誉は念珠を数回繰りました。貞誉は都の東、黒谷の中山で茶毘に付されました。煙はいつもと違い良い香りがして、五色の舍利が収骨されました。周りの人々は宝塔を作りその中に舍利を納め、今も拝む人々が一番多くいます。念仏行者の信じる力は、けっして虚しいものではありません。

(つづく)



総本山誓願寺は「法然上人二十五霊場」の中の第二十番霊場になっております。

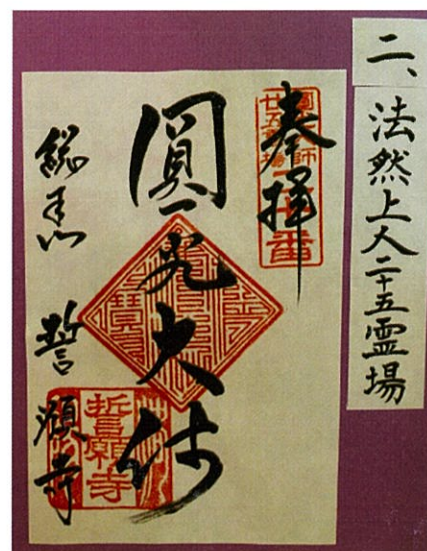
宝暦十二年（一七六二）、京都如来寺の廓誉順起の弟子で大阪恋西庵の順阿靈沢が、法然上人の五百五十年遠忌（一七六二）と順起の三十三回

忌（一七六二）を機に、師僧順起の遺志を継承し、大坂や兵庫の僧侶や商人と参拝団を結成し、ゆかりの地を巡拝

されたのが法然上人二十五霊場巡拝の始まりと言われています。法然上人二十五霊場は、法然上人の直接のご遺跡のみではなく、上人自作の御影（画）



総本山誓願寺所蔵
 北友雪作 法然上人像



誓願寺の御朱印「圓光大師」

像）、自筆の名号などが現存する寺院や、上人滅後や弟子に関係のある寺院も霊跡とされ、巡拝することで念仏の教えの尊さを知る喜びを得ることができます。世界中が混沌としている現在に法然上人の御教えを頂くことが皆さまの光明になることでしょう。

誓願寺をはじめ、他の二十四ヶ寺の霊場では、ご参拝になられた際に御朱印の授与をさせて頂いており専用の朱印帳も授与しております。皆さまに安心してご参拝頂けるような世の中になりますよう、心から祈念しております。（法然上人二十五霊場会ホームページより一部抜粋）



多聞第一阿難陀尊者

お経は、「如是我聞」または「我聞如是」と始まります。「私、阿難陀はこのようにお釈迦さまより聞きました。云々」と始まりお釈迦さまの説法の様子語られます。これはどうかと云いますと、お釈迦さまが涅槃に入られた後、弟子達が集まりお釈迦さ

まの教えを確認する会議が開かれました。これを「結集」と言いました。歴史上六回開かれています。現代に一番近い時代では、第二次大戦後、ビルマ（現在のミャンマー）で開かれ、ビルマ、タイ、スリランカのお坊さんが集まり、パーリ語で書かれた仏典を出席者で読み合わせし、『ビルマ第六結集版』が編纂されました。話を戻しまして、お釈迦さまが涅槃

多聞第一阿難陀尊者(その1)

お釈迦さまの生涯 外伝
お釈迦さまの十大弟子 21
絵・豆田織奈 文・釈尊法話会

に入られた後、第一回の仏典編纂会議が開かれました。「第一結集」と言われます。仏教教団を引き継いだ摩訶迦葉尊者が中心となり、会議を取りまとめ、「経（お釈迦さまの教え）」と「律（教団の規則）」を確認しあつたのです。その際、お釈迦さまのお世話係をしていた阿難陀尊者が「経」を唱えました。何故なら、お世話係として一番お釈迦さまのお側にいて、多くの説法を聞いたので、多聞第一と言われました。「律」は優波離尊者が唱えました。当時、「経」や「律」を紙に書くことはせず、弟子達は全て記憶してました。しかし、間違つて覚えてしまつたり、忘れてしまつたりします。それでは正しいお釈迦さまの教えを後世に残すことはできません。その為弟子達が一同に会し、確認しあつたのが「結集」です。阿難陀尊者のお陰で、現代に生きる私達にもお釈迦さまの教えが伝わっているのです。

(つづく)



インドタバタ 夫婦道中記 55

東龍寺住職 岩瀬賢良

駅名は…？

午後三時十五分、ナイニタールを後にして、麓の町、カートゴードムのバス停に着いたのは四時四〇分だった。まだ陽も高く、三日ぶりに肌に感じる暑さが、妙に安堵感を覚えた。

列車の発車時刻まで四時間もあったのに、小さな町なので店も少なく、またバツゲージを背負ったまま駅から遠く離れる気力もなく、僕たちは時間を持って余ってしまった。まして終着駅なので、他と違い駅構内にはレストルームや食堂、リタイヤリング・ルームもなく、本当に閑散としていた。こんな駅も避暑のシーズンには、きっと大変な賑わいを見せるのだろう。トイレにもシャワーの設備がなかったもので、列車待ちの間に身体をサッパリすることもできず、ホームの端から端を歩いたり、ベンチに寝ころんだりし

て、ただただ時間が過ぎてくれるのを待った。日が暮れてから、全く空腹感がなかったので、駅のすぐ近くの売店でバナナとミネラル・ウォーターだけ買っておいだ。

八時ごろになってチラホラと乗客がホームに入ってはきたが、十数人くらいだった。やがてホームの掲示板上に、寝台の席がプリントされた紙が貼られ、自分の名前を探して列車の番号と席の確認をした。僕たちが乗るであろう列車がホームに入り、全ての乗客が降りると車内の掃除が始まり、やっと列車に乗ることができたが、普段の様な追い立てられる緊張感はなく、のんびりと座席の番号を見つけ腰掛けることができた。僕たちの他にはボックスをひとつ隔てた席に男の乗客が一人いたくらいで、周りはガランとしていたが、一駅ごとに客が増える予想し、早めに荷物をまとめ就寝の準備をしておいた。だが確かに乗客は増えはしたものの、

席が埋まることはなく、夜も更けて眠りに入った。

翌三月九日(土)、午前四時四〇分、列車はデリー駅に到着した。デリー市内には大きな駅がいくつもあり、中でもニュー・デリー駅に対してデリー駅は、間違わないようにオールド・デリー駅とも呼ぶ。デリー駅に着いたのはいいのだが、どちらか分からず、ホームにいる人に聞いてしまった。まだ明けやらぬ状況で外に出ても仕方がないので、表玄関に当たる南側の駅舎の二階に上がり外を眺め、オールド・デリー駅だと確信した。



寝台車の上段で

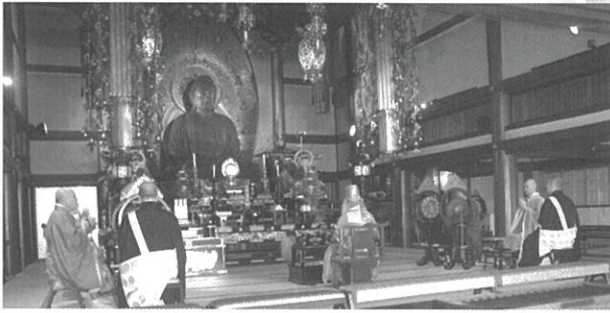
総本山誓願寺だより

春彼岸法要のご案内

春の彼岸法要を総本山誓願寺にてお勤め致します。是非ご参詣くださいますようご案内申し上げます。

合掌

期間 三月十七日(水)～二十三日(火)
時間 午前十時～午後三時
回向料 一霊 三千元



* 法要はお施主さま一組ずつ、本堂でお勤めします。
* ご来山の折には「納骨カード」をお持ち下さい。お持ちでない方は「案内封筒」を受付時にご提示していただければ再発行致します。
* ご不明な点がございましたら誓願寺までお問い合わせください。

おもな行事予定

- 三月**
 - 十四日(日) 善導忌六阿弥陀功德日
 - 十七日(水)～二十三日(火) 春彼岸
- 四月**
 - 十日(土) 花まつり
 - 十五日(木) 六阿弥陀功德日
- 五月**
 - 十八日(火) 六阿弥陀功德日
- 六月**
 - 十三日(日) 和泉式部忌
 - 十九日(土) 六阿弥陀功德日
- 七月**
 - 十四日(水) 六阿弥陀功德日
- 八月**
 - 十五日(日) 六阿弥陀功德日
 - 十六日(月) 精霊送り・盆施餓鬼

クイズコーナー

【問題】

4頁法然上人御遺跡霊場巡りのご案内より、総本山誓願寺は「法然上人二十五霊場」の中の何番目の霊場になっていますか？漢数字2文字でお答えください。

第〇〇番霊場

官製はがきに、答え、郵便番号、住所、氏名、電話番号、菩提寺(だんな寺)、感想や質問を必ず書いてご応募下さい。なお、ご提供いただいた個人情報につきましては、プレゼントの発送のみに利用いたします。今回は延長寺さまよりえびせんべいを5名さま、本山謹製線香を5名さまに抽選して差し上げます。ご応募お待ちしております。

【宛先】 〒四四四-三三〇五

愛知県岡崎市本宿町東木竹十六番地
欣浄寺内 ちかい編集係

答え 〇〇〇
郵便番号
住所
氏名
電話番号
菩提寺(だんな寺)
感想・質問等

【締切】五月三十一日
(消印有効)

ちかい 第161号

発行日 令和三年三月五日
発行所 浄土宗西山深草派
総本山誓願寺

京都市中京区新京極桜之町四五三番地
電話 (〇七五) 二二二-〇九五八
FAX (〇七五) 二二二-二〇一九
E-mail info@fukakusa.or.jp
URL https://www.fukakusa.or.jp/

何でもお寺探偵団

延長寺 Vol.59



石川寛登師 (延長寺 第26世) 46歳

profile 愛知県高浜市の在家に生まれる。碧南工業高校卒業後、京都西山短期大学へ進学、総本山誓願寺にて隨身し、平成9年延長寺第25世観諦上人の後を継ぎ住職を拝命。柔道初段。

延長寺住職とは公私共に付き合いが深く、先代御住職が口にされていたことをふと思い出しました。「檀家に物凄く上手にお経を読む子供がいる。何とか後継ぎにしたい」と。その子供は「深草在家勤行式」も法然上人御遺訓「一枚起請文」も大きくてとてもいい声で読んでいたそうです。そうその人こそ今回取材させて頂いた延長寺第26世御住職です。温厚で緻密な性格で照れ屋の一面もあり人間味あふれる方です。お経を読ませれば宗派でも一、二を争う美声と声量の持ち主でいまや当派になくはない存在で深草派の大黒さまのような方です。読者の皆さまもお馴染みかもしれませんね。(探偵H・K)



今回は愛知県西尾市吉良町宮崎の「長嶺山 延長寺」を訪ねました。

その他、地蔵菩薩立像、弘法大師座像が本堂に。弘法大師像は元々お寺に祀られたお像の他に近隣の信徒さま方から数多くの奉納があり、境内の弘法堂に祀られています。また宮崎三十三観音のうち十三から二十五番目の観音石像が祀られています。

を戴き、分け隔てなく人と接することを意識しています。また「よく聞きよく読みよく真似る」ことを念頭に普段から大きな声でお経を読むことを心掛けています。

Q1 お寺の歴史を教えてください。

慶長16年(1611)吉良町吉田西福寺7世空山教旦上人により建立。その師、玉譽琢公上人を開基とし、脈々と法灯は引き継がれ現在に至ります。

Q3 お坊さんとしての心掛を教えてください。

本山隨身時の管長 猊下から「同入和合海」という言葉

Q4 「ちかい」の読者に何か頂けませんか。

檀家さんが丹精込めて焼き上げた「えびせんべい」を5名さまに差し上げます。

Q2 お寺にはどんな仏さまが祀られていますか。

御本尊阿弥陀如来三尊立像

【交通】
名鉄「三河鳥羽」駅より南西に徒歩20分。吉良温泉にあります。

【主な行事】
弘法大師御祥当法要 旧3月21日 朝7時
盆施餓鬼 7月第2土曜日 午前中
彼岸会 春秋彼岸中隨時
除夜の鐘 大晦日 午後4時半

【お問い合わせ】
延長寺
〒444-0513
西尾市吉良町宮崎中新居78
電話 0563-32-0666



地藏菩薩立像



弘法大師座像



本堂



弘法大師堂